

# 図画工作科における学習指導と評価

## 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

図画工作科では、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を育成することを目指している。そして、この育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

## 2 図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

(1) ①「知識及び技能」が習得されること、②「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、③「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

(2) 必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。題材など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進める。

(3) 「深い学び」の視点に関しては、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげる。

(4) 表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにする。

## 3 「造形的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

「造形的な見方・考え方」とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことであると考えられる。児童がどのような意味や価値をつくりだしているのかを理解できるようにするためには、例えば、児童が授業中に様々な考えや思いをつぶやいたり、説明したりする場面において、教師が共感的に捉えるとともに、それらを共有することが大切である。

## 4 図画工作科における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について

「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」は、観点別学習状況の評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」に属しており、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価していく。これらは、学びの中で相互に関わり合いながら立ち現われるものとして考えられる。例えば、友人と全く会話をせず、時間を考えないで黙々と活動するような学習を調整しようとしないう姿や、反対に、友人と学習に関係のない会話に終始し、粘り強く活動に取り組まない姿は、望ましい姿ではない。授業においては、活動の中の適切な場面において友人と学習内容について対話する場面が設定されたり、見通しをもちながら学習できるように支援したりすることが大切である。また、評価においても作品や作品票からだけではなく、学習活動の過程の中のつぶやきや、教師との対話、学習活動の振り返りが行えるワークシートや図工ノートなど、多角的な視点で評価を行うことが大切である。

## 5 観点別学習状況の評価の観点について

### (1) 学習評価を実施するまでの流れ（評価規準作成手順）

① 学習指導要領に示された図画工作科の目標を確認する。（P149 第2の1を参照）
② 文部科学省通知に示された「図画工作科の評価の観点及びその趣旨」を確認する。（同項2(3)を参照）
③ 学習指導要領に示された図画工作科の目標を踏まえ、学校・児童等の実態を明確化する。
④ 学習指導要領解説を参考にし、学校・児童等の実態を考慮して題材及び題材の目標を設定する。
⑤ 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。（同項4参照）
⑥ 題材ごとの評価規準を作成する。（同項5参照）
⑦ 指導と評価の計画を作成する。（評価場面や評価方法等を計画する）
⑧ 評価規準に達しない児童への手立てを設定する。
⑨ 授業を行い、評価結果などから観点ごとの総括的評価を行う。

### (2) 図画工作科の評価の観点及びその趣旨について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ・材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

### (3) 学年別の評価の趣旨について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年		
・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付いている。 ・手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。	形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。	つくりだす喜びを味わい楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
第3学年及び第4学年		
・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かっている。 ・手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。	形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。	つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
第5学年及び第6学年		
・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 ・材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

### (4) 「内容のまとめりごとの評価規準」の作成について

「内容のまとめりごとの評価規準」は、学習指導要領に示された図画工作科及び各学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、以下の手順を参考に作成することができる。

まず、①図画工作科の「内容のまとめり」（解 P23 参照）と「評価の観点」との関係を確認し、次に②観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

【第1学年及び第2学年「造形遊び」における内容のまとめりごとの作成例】

① 図画工作科の「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する。

「A表現」(1)ア…思考力、判断力、表現力等に関する内容 (2)ア…技能に関する内容
「B鑑賞」本題材においては鑑賞活動を設定しないことを確認する。
〔共通事項〕(1)ア…知識に関する内容 (1)イ…思考力、判断力、表現力等に関する内容

② 観点ごとのポイントを踏まえ「内容のまとめごとの評価規準」を作成する。

「内容のまとめごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】
○「知識・技能」のポイント ・「知識」は、〔共通事項〕(1)アから作成する。
・「技能」は、「A表現」(2)アから作成する。
・「A表現」(2)の文頭「造形遊びをする活動を通して」は、内容のまとめを示すものなどで削除する。
・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。
○「思考・判断・表現」のポイント
・「思考・判断・表現」は「A表現」(1)ア、〔共通事項〕(1)イから作成する。〔共通事項〕(1)イに続けて「A 表現」(1)アを示し、「自分のイメージをもつ。」を「自分のイメージをもちながら、」とする。
・「A表現」(1)アの文頭の「造形遊びをする活動を通して」は、内容のまとめを示すものなので削除する。
・「A表現」(1)アの「造形的な活動を思い付くことや、」を「造形的な活動を思い付き、」とする。
・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
・「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年の「観念の趣旨」を踏まえて作成する。
・鑑賞の活動を行わない場合は「表現したり鑑賞したりする学習活動」を「表現する学習活動」とする。

【第1学年及び第2学年「造形遊び」における内容のまとめごとの評価規準例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気 付いている。 ・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる とともに、並べたり、つないだり、積んだり するなど手や体全体の感覚などを働かせ、活 動を工夫してつくっている。	形や色などを基に、自分のイメージを もちながら、身近な自然物や人工の材 料の形や色などを基に造形的な活動 を思い付き、感覚や気持ちを生かしな がら、どのように活動するかについて 考えている。	つくりだす喜びを味わい 楽しく表現する学習活動に取 り組もうとしている。

(5) 題材の評価規準の作成について 題材の評価規準の作成に当たっては、図画工作科及び各学年の目標や内容、「内容のまとめ ごとの評価規準」等の考え方を基に「題材の評価規準作成のポイント」を参考にしながら作成す る。その際、身に付ける資質・能力や学習活動、扱う材料・用具等を考慮し、題材に即して具 体的に作成していく。

【題材の評価規準作成のポイント】

「知識・技能」	
「知識」	「技能」
・全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色な どの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指 導計画の作成と内容の取扱い2(3)「〔共通事項〕のアの指導」(解 P114 参照)を参考にして、題材に即して具体的に示す。・全ての題材において、「自分の感覚や行為を通して」については、題 材に即して具体的に示す。	・全ての題材において、全学年の「材料や 用具」、中学年、高学年の「前年度までの 材料や用具」については、指導計画の作 成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」(解 P117 参照)を参考にして、題材に即して 具体的に示す。
「思考・判断・表現」	
<p>・造形遊びをする活動における、低学年の「身近な自然物や人工の材料の形や色など」、中学年の「身近な材料や場所 など」、高学年の「材料や場所、空間などの特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」 (解 P117)などを参考にして、題材に即して具体的に示す。</p> <p>・絵や立体、工作に表す活動における、低学年の「感じたこと、想像したこと」、中学年の「感じたこと、想像したこ と、見たこと」、高学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいこと」については、題材に即して 選択し、具体的に示す。</p> <p>・鑑賞する活動における、低学年の「自分たちの作品や身近な材料など」、中学年の「自分たちの作品や身近な美術作 品、製作の過程など」、高学年の「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形など」 は、題材に即して選択し、具体的に示す。</p> <p>・全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な 特徴」につ</p>	

いては、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「〔共通事項〕のアの指導」(解 P114 参照)を参考にし、題材に即して具体的に示す。
「主体的に学習に取り組む態度」
・題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に示す。

【題材の評価規準設定例】

内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年			
「鑑賞」	知自分の感じたことを話したり、聞いたりする行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付いている。	鑑形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	態つくりだす喜びを味わい 楽しく自分たちの作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。
第3学年及び第4学年			
「造形遊び」	知自分の感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどに気付いている。技木切れなどを適切に扱うとともに、木や小刀類などについての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。	発形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、木切れや校庭などの場所を基に造形的な活動や、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。	態つくりだす喜びを味わい 進んで木切れなどで造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。
「鑑賞」	知身近な美術作品を見るときにの感覚や行為を通して、形や色など感じが分かっている。	鑑形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、身近な美術作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	態つくりだす喜びを味わい 進んで身近な美術作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。
第5学年及び第6学年			
「造形遊び」	知自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。技活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの板材についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくっている。	発形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、スチレンボードや校舎の空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えている。	態つくりだす喜びを味わい 主体的にスチレンボードや校舎の空間などの特徴を生かしながら造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。
「鑑賞」	知自分たちの作品を見るときにの感覚や作品について語ったり、友人と話し合ったりする行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。	鑑形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	態つくりだす喜びを味わい 主体的に自分たちの作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

※ 例示されていない内容は、「題材の指導と評価の計画 (P154～)」及び「題材の指導・評価計画 (P161～)」を参照  
※ 知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態＝「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。

6 個人内評価の扱いについて 「学びに向かう力、人間性等」には、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価等を通じて見取る部分がある。個人内評価の対象となるものについては、児童

が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童に伝えることが重要である。特に、「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやりなど」児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し児童に伝えることが重要となる。観点別学習状況の評価と評定では十分に示しきれない一人一人のよい点や可能性などを、個人内評価として適切な時期に行い、指導と評価の一体化を図ることも大切である（製作中の助言・作品カードへのコメントなど）。個人内評価においても児童に身に付けさせたい資質や能力を明確にし、それに照らして学習評価を行うことが重要である。また、言語活動を充実させるために、〔共通事項〕の視点を取り入れ、豊かに語りかけたい。